JAPAN Qualityを、
バタムから。

「確かな技術」と「国際規格を満たす品質」で世界が認める
TOMOEのバタフライバルブ。
インドネシア・バタムの人たちとともに、
世界に送り出しています。

TOMOE
流体制御・コストパフォーマンスの両面で優れた性能を発揮。
上下水道や石油・化学、造船など、世界が求める
「バタフライバルブ」をご提案します。

巴バルブ株式会社
www.tomoevalve.com
お問い合わせは　巴バルブ株式会社 本社：〒550-0013 大阪市西区新町3-11-11 TEL(06)6110-2101
PT. Tomoe Valve Batam : Block F2 Latrade Industrial Park, Jl. Sei Binti Tanjung Uncang Batam 29422 Indonesia TEL 010-62-778-395466

インフラ整った工業団地に日系企業が多数進出

バタム島の魅力

シンガポールの沖、数十キロメートルに広がるインドネシア領リアウ(ケプリ)諸島州(PROVINCE OF KEPRI=RIAU ISLANDS)は総面積25万平方キロメートルだが、その96%が海(24万平方キロメートル)で、残る4%、1万595平方キロメートルが島々からなる陸地。このリアウ諸島の北部は東から『ビンタン』(BINTAN)』『バタム(BATAM)』『カリムン(KARIMUN)』諸島で、3諸島群のイニシャル(頭文字)をとって『BBK』と呼ばれている。2007年にバタム全島に加え、ビンタン島とカリムン島にある工業地域が自由貿易区(FTZ)に指定され、71年から他島に先駆けて開発されてきたバタム島がけん引する形で『BBK』開発を進めている。10年のインドネシア投資はシンガポールが1位となったが、この「シンガポール企業」の中にシンガポールで操業し、そこからバタム島などに投資した日系企業や日系合弁も含まれている。

バタム島
累積総投資額 130億米ドル **政府投資額:26億米ドル／民間投資額:104億米ドル**
26の工業団地・975社の外国企業・9,900社の地元企業
光ケーブル網を備えた近代的な通信施設
十分な信頼性の高い電力供給
人口総数：70年に約6000人。現在は103万人以上
投資手続きの合理化とワンルーフサービス
充実した国内・国際金融機関
4つの貨物港と6つの旅客用フェリーターミナル
4015メートルの滑走路を備えた近代的な空港
1600キロメートルの舗装道路と高速道路交通網

リアウ諸島の要

バタム島はシンガポールから、約20キロメートルの位置にあり、シンガポールから国際フェリーで1時間足らず。リアウ諸島の要と言える島だ。現在、バタム島に六つある国際フェリー・ターミナルとシンガポール間に毎日6時から22時まで96便のフェリー便が就航している。

バタム島開発は71年、インドネシア大統領直属の機関としてバタム工業開発庁(BIDA)が設立され、シンガポール政府との協調体制の下に始まった。ハビビ大統領時代に隣接するレンパン、ガラン島などバタム諸島内が六つの橋で結ばれ、その総面積はシンガポールの国土618平方キロメートルを上回る715平方キロメートルになった。

70年には6000人程度の漁村だったバタム島の人口が00年に50万人を超え、現在では103万人以上に増えている。バタム島にはこれまでに67社の日系企業が進出、同島に駐在する日本人は300人ほど。バタム島だけでもシンガポール経由で年100万人以上の外人観光客が来ている。主な工業団地だけでも22カ所あるバタム島はインフラ整備が進んだ。そしてバタム島の東西に隣接する『ビンタン』と『カリムン』諸島へもバタムの成功を拡大していくことになった。具体的には06年6月25日、ユドヨノ大統領とシンガポールのリー・シェンロン首相がバタム島で会談し、BBK各島にSEZ(特別経済特区)を設置する経済開発協力の枠組協定に合意。07年8月にはバタム島の全域に加えてビンタン島とカリムン島の島内に工業化地域を作り、そこをFTZに指定した。「BIDA」(バタム工業開発庁)の名は有名だが、「BIDA」はバタム島を管理する「BIFZA」(Batam Indonesia Free Zone Authority=インドネシア・バタムフリーゾーン監督庁)に組織変更している。

“戦略的な地理的条件を活かしてグローバル化に対応してゆく”と意欲的に語るムストファ長官

100%の出資も可能

BIFZAのムストファ・ウイジャジャ(MUSTOFA WINDJAJA)長官は、「これまでにバタムには34カ国から1247社の多国籍企業が投資している。インフラの整った工業団地がある。延べ1600キロメートルの舗装道路が整備され、四つの貨物港もある。現在の発電能力は372メガワット強だが15年までに644メガワットにする予定。さらに六つの貯水池もあり、供水能力も十分」と強調する。同長官によると、海外からの直接投資は11年1—3月でも好調で、同期間に外資26件が2390万米ドルを投資、同期間にバタムに既進出の5企業による総額880万米ドルの拡張投資もあったという。「シンガポールのインフラや金融、テクノロジーと連動できるバタムの投資環境の良さに注目して欲しい。バタムの最低賃金は120米ドル程度と安く、優秀な労働力があふれている。100%出資の投資も可能であり、我々は税制優遇などの恩典を準備している」とムストファ長官は日本企業の進出を歓迎している。

バタム島にはインドネシアで最長にあたる長さ4015メートル(幅45メートル)の滑走路を持つハン・ナディム(HANG NADIM)国際空港があり、「首都ジャカルタに一日18便などの国内線のほか、数便の貨物便も飛んでいます。東部インドネシアのバリ島と日本に直行便があるように、バタム島へも日本からの路線が就航してほしい」とムストファ長官は期待している。

リアウ諸島州最大の島がビンタン(BINTAN)島で1950平方キロメートルの広さはシンガポールの約1・5倍。ビンタン島とバタム島もフェリーが約20分で結んでいる。ビンタン島南部に位置するタンジュン・ピナン市がリアウ諸島州の州都。バタム島から最短距離で6686メートル離れているビンタン島まで、バタム本島に近い島(Tanjun Sauh)とビンタン島のBUAUまでを橋で結ぶ構想もある。計画では4車線で、海面から高さ60メートルの大橋になる。ムストファ長官は「実現すればこの地域の成長が加速することは間違いないが、先に我々が取り組むべきは各島の外資誘致をもっと増やすこと。需要あってのプロジェクト」と言う。

インドネシア最長の滑走路を持つハン・ナディム国際空港

投資手続きを一カ所で

バタムなどリアウ諸島への投資に必要な各種ライセンスが一カ所で取得できるワンルーフ(ひとつの屋根)サービスが06年7月、バタム島の「BIDAビル」に近い「バタム・センター」にオープンした。海外からの投資企業に対して、インドネシア投資調整庁(BKPM)への投資申請、財務省、労働省、法務移民省、各地方自治体への各許認可申請が「ワンストップ」で行なえ、素早いサービスを提供している。この「ワンルーフ・サービス」のセンターでは個人事業者の場合は本人のパスポートだけ、企業は登記簿さえ持ってこの事務所に来ると、商業ライセンスが数日以内に発行され、わざわざジャカルタに行かなくてすむ。

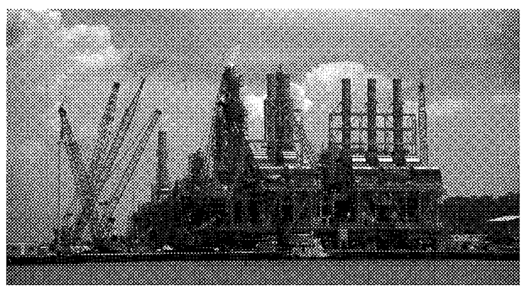
優秀で豊富な人材

バタム島最古の工業団地であるバタミンド工業団地(BIP)は、インドネシアのサリム・グループがシンガポールの政府系企業であるセムコープ工業団地運営会社(SembCorp Parks Management Pte)などと組み、開発を進めてきた。シンガポールに近いバタムの工場では、優秀なシンガポール人を日本人の半分ほどのコストで管理者として使えるため、日系企業の進出が多い。

BIPに進出しているシークス(SIIX、東証・大証第1部)のインドネシア法人であるSEI(Siix Electronics Indonesia)もその一つだ。94年4月に資本金約200万米ドルで、基板実装工場として設立、06年には完成品工場もスタートさせている。バタム島の工場で使用する原材料、部品はシンガポールから仕入れ、バタムで組み立てられた製品はいったんシンガポールに出してから世界のユーザーに輸出している。「インドネシアの優秀で豊富な人材、シンガポールのインフラの優位性をうまく利用して、お客さまの満足度をさらに高める努力をしています」(同社)と説明する。

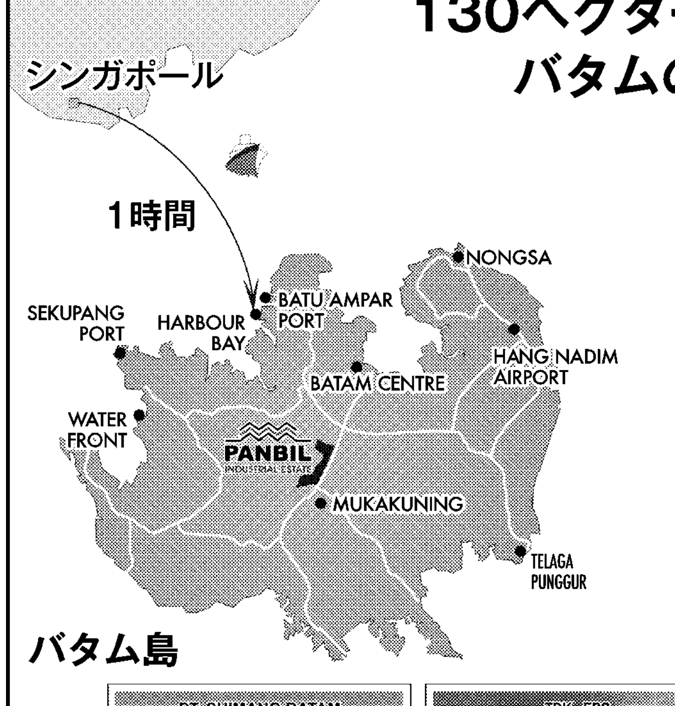
工場増設相次ぐ

バタフライバルブの分野で世界で10%のシェアを誇る巴バルブ(大阪市西区)がシンガポールに設立している同社の持ち株会社からの投資でバタム島に設立されている巴バルブ・バタムは、バタム島の工場を巴バルブのメーン工場に育てるという決意に伴う思い切った投資を実行してきた。バタム島西部のラトレード(LATRADE)のローカルの工場団地に進出し、「シンガポール経由で必要なものは即時調達し、生産活動は順調」(同社)とバタム島の投資環境に満足して生産活動に集中している。トーヨーカネツでは海外の多数のエネルギー開発計画に対応するため、78年にバタム島に進出。トーヨーカネツ・インドネシア社(TKI)として、このバタム工場で原油貯蔵タンク、LNG極低温貯蔵タンク、LPG低温貯蔵タンク、球形タンクなど多数の製造実績を重ねており、工場増設を続けている。


製造業の進出に適したバタム島

Panbil Industrial Eastate
PANBIL INDUSTRIAL ESTATE
投資に関する全てのお手伝いをいたします

130ヘクタールの土地を
バタムの戦略的な中心部に用意しています

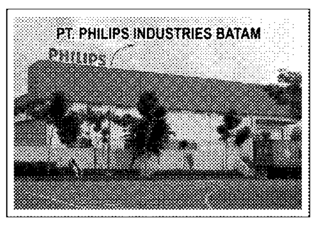


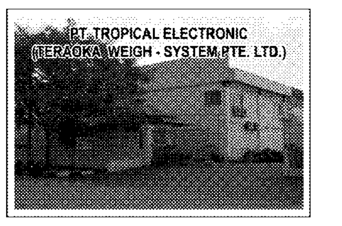
投資への利点：
- 自由貿易地帯
- 80年の土地使用権（延長も可）
- 豊富な労働力

幅広い産業促進のための環境
- 1,200m²〜1,500m²の工場操業が即可能（購入、レンタルはお好み次第）
- 独自の設計での工場建設も可
- 工業団地の自家発電、給水も完備
- 従業員用の宿舎、レクリエーション施設も完備
- 他社に負けない競争力
- ワンストップサービスでの支援活動

PT. SHIMANO BATAM

TDK - EPC
(PT. EPCOS INDONESIA)

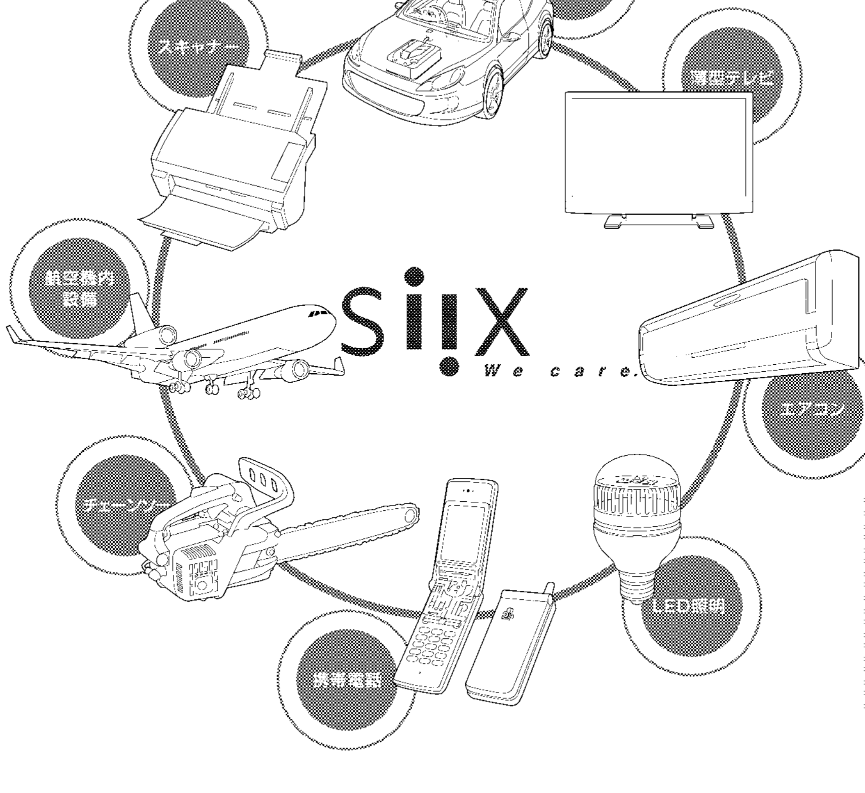




Batam :
PT. NUSATAM PROPERTA PANBIL
Panbil Plaza, Jalan Ahmad Yani
Muka Kuning - Batam 29433, Indonesia
Tel. +62 778 371000, Fax. +62 778 371100
www.panbil.co.id

連絡先：
–Agnes Budiman
Mobile : +62 811692521
E-mail : agnes@panbil.co.id
–Ricky R.P.Johnny
Mobile : +62 81372041888
E-mail : ricky_rpj@panbil.co.id

意外に身近な“シークス”です。


自動車
薄型テレビ
スキャナー
航空機内設備
エアコン
チェーンソー
LED照明
携帯電話
SIIX
We care.

「シークスは何屋さん?」

シークスは、電子・電気・自動車メーカー等の海外生産や国際調達に不可欠な、部材調達・物流から製造まで、トータルなEMSサービス(受託製造サービス)を提供しているユニークなグローバル企業です。意外にも、皆様の身近にある製品がシークスの手を経て作られています。

お客様の「ニーズ」に合わせて、特定の分野や地域にこだわらず、「360度志向」の事業を展開しており、「何屋さん」と言えないのが、シークスの強みなのです。

NEW
インドネシアにおける2つ目のEMS工場、PT. SIIX EMS INDONESIAが2011年7月より稼動いたします。
インドネシアで今後一層拡大が見込まれるエレクトロニクス関連、車載関連などの分野において、お客様のアウトソーシング・ニーズにお応えいたします。

シークス株式会社
本社：〒541-0051 大阪市中央区備後町1-4-9 TEL: 06-6266-6400
東京営業部：〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25 TEL: 03-3238-7000
EMS技術統括部：〒252-0101 神奈川県相模原市緑区町屋1-3-25 TEL: 042-782-5400
東証・大証第一部 上場　証券コード：7613　ホームページ：http://www.siix.co.jp/
営業拠点：海外13カ所(タイ・中国・香港・シンガポール・フィリピン・アメリカ・ドイツ・ブラジル など)
自社工場：海外4カ所(タイ・中国・インドネシア・スロバキア)、国内1カ所　その他関連会社 13社